

国際研究交流の推進に要する経費

【50（63）百万円】

対策のポイント

国際農業研究機関と協力した国際農業研究に携わる我が国若手研究者の育成や、戦略的・重点的に行うべき国際農業研究課題を明らかにする基盤的調査等を実施する他、我が国研究者によるアフリカ農業研究者の能力構築を実施することにより、国際研究交流の推進を図ります。

（国際研究交流がもたらす成果）

- ・ 日本人の若手研究者を海外に派遣して将来の国際研究を担う人材を育成する他、海外で活躍する日本人研究者が若手アフリカ人研究者を育成することにより日本人の行う研究が現地に効率的に波及します。
- ・ 国際研究交流ネットワークの構築により、食と農の安全に関する問題について研究情報の共有が図られ今後の対策に活かされます。

政策目標

国際農業研究をイニシアティブを持って推進する我が国研究者を育成

効率的・効果的な国際農業共同研究の推進に貢献

食と農の安全を脅かす問題ごとに解決を目指す研究交流ネットワークを構築

我が国研究者の行う研究成果がアフリカに効率的に波及

<内容>

1. 国際共同研究人材育成推進事業

国際的な視野を持った人材の育成を行うため、我が国の35歳以下の若手研究者に対し、公募により国際農業研究機関等における研究機会を提供します。

2. 戦略的国際農業研究基盤調査事業

国家的・社会的に重要な課題について、基盤的・俯瞰的な調査を実施し、我が国が戦略的・重点的に行うべき国際農業研究課題を明らかにします。

3. 食と農の安全確保のための多国間研究交流ネットワーク事業

国境を越えて発生している食と農の安全を脅かす問題について国際的な研究開発を推進するため、国際共同研究や多国間のワークショップを実施します。

4. アフリカ農業研究者能力構築事業

アフリカに関連した国際農業研究機関等において共同研究を行っている我が国の研究者の下にアフリカの若手研究者を招へいし、研究成果・技術の伝達とアフリカの研究者の能力構築を一体的に実施するためのオン・ザ・ジョブ・トレーニングを公募により実施します。

[担当課：農林水産技術会議事務局国際研究課（03-3502-7466）]

国際共同研究人材育成事業のスキーム

各 CGIAR センターから課題を募集

若手研究者は関心のある課題に応募

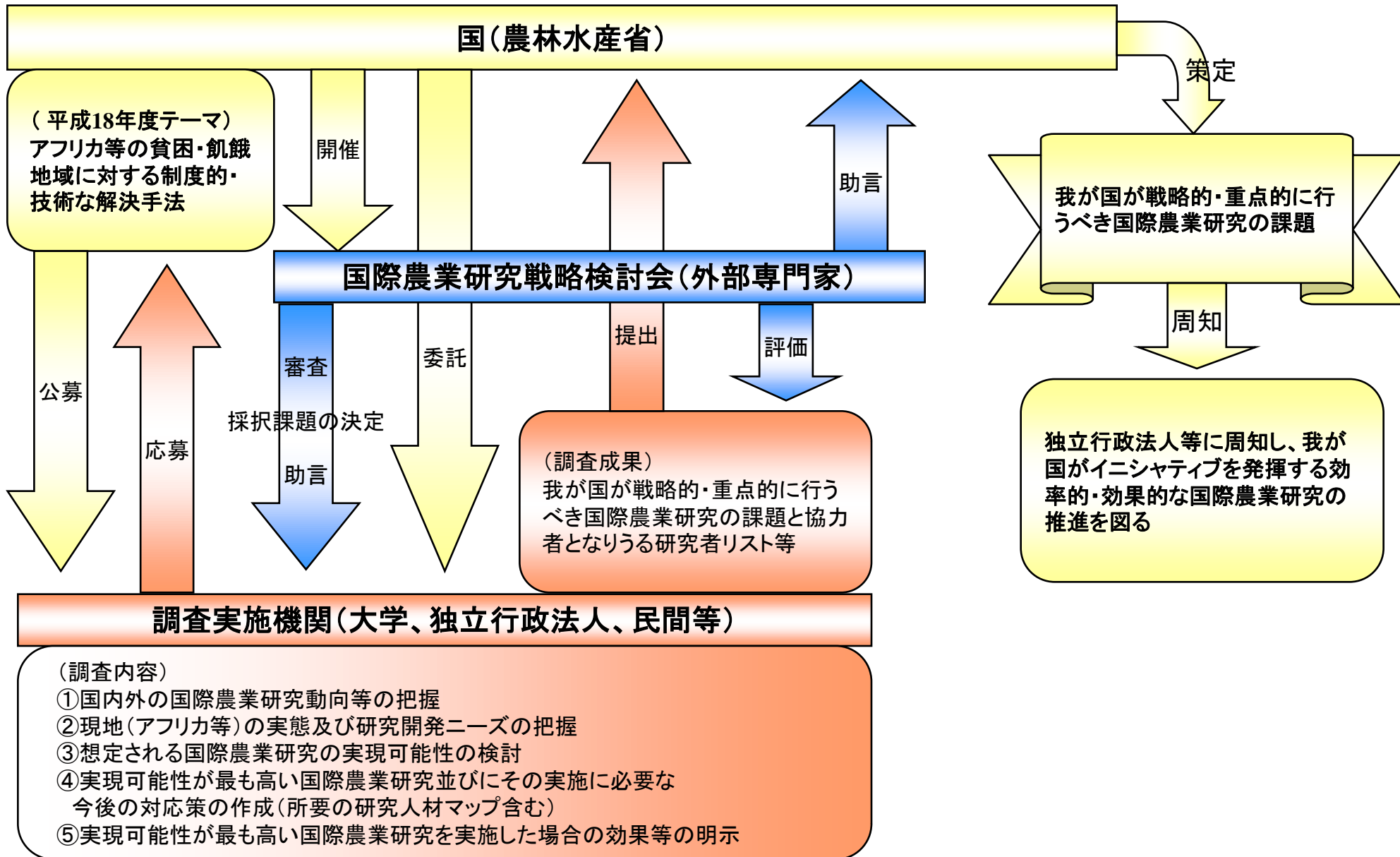
10名程度を選抜し、2ヶ月程度派遣

募集課題例	国	担当センター
酸素欠乏状態での発芽生理の解明	フィリピン	IRRI
遺伝子組み換えパパイヤを例とした、遺伝子組み換え作物導入に際するバイオセーフティ規則と地域に対する注意喚起法の開発	バングラデシュ	CIMMYT
農家生活と土地の保全手法	ケニア	ILRI
半乾燥熱帯地域における穀類及び豆類の伝統的・先端的技術を利用した品種改良	インド	ICRISAT
大豆における乾燥耐性の遺伝的要素分析	コロンビア	CIAT

国際農業研究協議グループ (CGIAR)

- ・環境に優しい自然資源管理に基づいた持続的な農業開発を促進し、開発途上国における食糧安全保障・貧困撲滅に貢献することを目的として、1971年に設立。15の国際農業研究センターから構成。
- ・これまで、最先端の農業科学技術を駆使し、小麦や米など「緑の革命」を可能にした多くの成果を世界に発出。
- ・最近では、新しいアフリカ稲 (NERICA) や優良タンパク質のトウモロコシ品種を開発。また、世界最大の遺伝資源を保管し、生物多様性の保全にも大きな貢献。

戦略的国際農業研究基盤調査事業の概要



食と農の安全確保のための多国間研究交流ネットワーク事業

【食と農に対する脅威の増大】

- 近年、国境を越えて疾病や病虫害が連続発生
→新興・再興感染症や高病原性鳥インフルエンザの発生等
- アジアで顕在化しつつある我が国未発生の問題の温暖化等による侵入可能性の増大
→カンキツグリーンング病の沖縄への侵入等

【安全・安心に関する施策の展開】

- 日本ASEAN行動計画(H15.12)
→情報共有等食品安全につき密接な協力関係の構築
- 経済財政運営と構造改革に関する基本方針2004(H16.6)
→鳥インフルエンザ対策等、食の安全・安心の確保及び新たな感染症といった国民の生命、健康を脅かす事態への対応

【目的】

脅威への「対処」から「予防(早期発見・早期対応)」への展開
二国間から新たな多国間の研究交流ネットワークの早急な構築

【対応の方向】

(1) 新たな多国間の研究交流ネットワークの構築

- 多国間のワークショップの開催等を通じた研究交流ネットワークの構築

(2) ネットワーク活用による国際共同研究

- ① 研究情報の分析・検証のために必要な国際共同研究
 - 地域に適した簡易で迅速な食品汚染物質検査技術の食品輸出国での検証 等
- ② 食と農の安全を脅かす国際的な病害等の予防、まん延防止、早期危険回避のために必要な国際共同研究
 - 国境を越えて我が国に侵入する病原体や害虫の予防・防除法に関する研究 等

我が国における農林水産業の安定化と食料安定供給の確保
我が国のアジアにおけるリーダーシップの確保と国際貢献

アフリカ農業研究者能力構築事業

我が国における政策課題

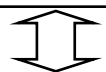
- 国民生活の安定向上及び国民経済の健全な発展のためには世界の食料需給の将来にわたる安定が必要。

国際社会における我が国の役割



- アジア・アフリカ首脳会議（平成17年4月）
・小泉首相のスピーチ「アフリカにおける人材育成への支援」
- 香港閣僚会議（平成17年12月）
・開発分野パッケージ「小泉イニシアチブ」

増大する国際的ニーズ



- 米国シーアイランド・サミット行動計画（平成16年6月）
・アフリカの食料安全保障が不安定な国々が農業科学技術を発展させることを支援

事業のねらい

- アフリカに関連する研究開発の成果がアフリカで適応されるには、現地適応、普及を担う現地研究機関の人材育成が必要。
- アフリカに関連する農業研究を行っている我が国研究者の下でアフリカ人の若手研究者の能力構築を行うことで、我が国研究者が行っている研究成果を着実にアフリカでの普及に結びつけ、我が国の顔の見える貢献とすることが可能。

アフリカのCGIARで活躍する日本人研究者の研究テーマ（例）

- アフリカにおける低地適合性アフリカ用稲の開発（ベナン）
- アフリカ牛の風土病ワクチンの開発（ケニア）
- 地力維持のための間作用豆類の改良（ナイジェリア）
- アフリカ起源の食用作物に関する遺伝的多様性の調査（ケニア）

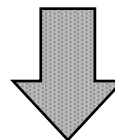


- 国際農業研究機関で開発された技術を現地に適応させることが必要。
しかし、現地の研究者が不足しているため、成果の普及に問題。



アフリカ農業研究者能力構築事業

- アフリカに関連した国際農業研究機関で共同研究を行っている我が国の農業研究者の元に途上国研究者を招へいし、能力を引き上げるためのオンザジョブ・トレーニングを実施する。
実施主体：独立行政法人 等
実施期間：平成18年度～平成22年度
平成19年度概算決定額：24,344千円



- ・我が国研究者の行っている研究の成果の普及。
- ・アフリカ人農業研究者の能力構築を通じた国際社会における我が国の顔の見える貢献。

